

広報 ごじょうめ

発行所 秋田県五城目町夜場 編集 総務課 電話(018876)代 2100番
印刷所 湖東印刷所 電話(018876)2430番 (一部五円)
郵便番号 018-17 毎月1日・15日発行

人口と世帯

世帯数 3,910 世帯
人口 17,962 人
内訳 { 男 8,688 人
女 9,274 人

住民登録調 (47年8月末現在)

転入・転出の場合はかならず窓口へ届出ください。

秋の味覚

秋は果物のおいしい季節である。中でも、ブドウはその横綱格で大家に愛されている。

一茎に4〜50から100位の粒が細い枝の先までたわわに実って、見事な房状となり下垂して熟れる。口に入ると甘酸っぱく、甘美なじゃ香の香りがする。

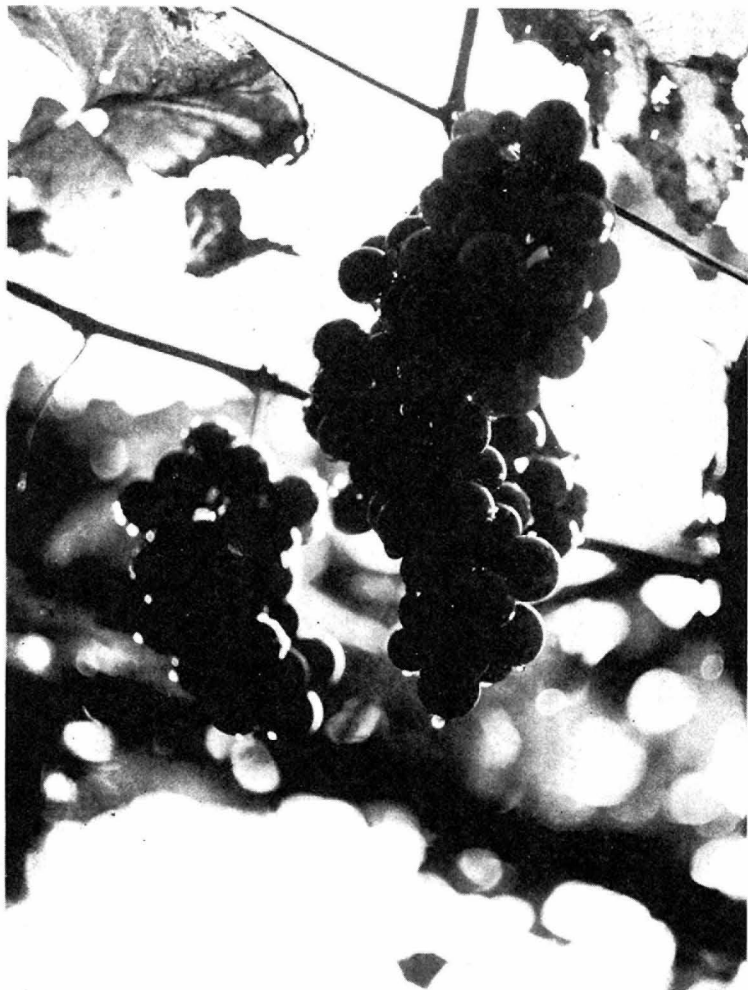
わが国のブドウ栽培は、今から770年ほど前に、甲府の雨宮勘解由が、中国から渡って来たブドウの実生(みしょう)から生じたものをさし木によって繁殖させ、栽培したのが最初だとするものと、また一方で、文治2年(1186)八代郡祝村(現在東山梨郡勝沼町)に自生していた葦草を発見、培養したものが現在に至つたとする二説がある。

明治の初めに、ヨーロッパ系やアメリカ系など130種ほど導入したが、雨の量が多い日本の気候と、栽培技術の幼稚さから、そのほとんどが失敗してしまつた。

以後両系統の品種の改良種とも雑種ともいわれる黒の代表品種、キャンベルスアーリーの全盛期を迎えた。円形で粒が大きく穂が長く、糖分も多い、豊産なので、ブドウ生産量の主要な地位を占めている。秋田県では、明治8年に導入栽培され、金足追分周辺が主産地を形成している。

本町では、10年程前から約0.5haの栽培がおこなわれており、昨年頃から本格的な出荷をしている。

ブドウがおいしいのは、秋が深く作物の取り入れの忙しさと、喜びがすぐそこにきている予告でもある。



写真は樋口猿田俊蔵氏のブドウ園で

広報サロン

「ユーラシアの友情」

秋田県連合青年会事務局長

一関敏弘



一六六 外研修 青年海 県が実 施した 記念し 百年を 立県

名が八月十四日より二週間の旅。私は役員団の一人として、日本の六十倍もある広大な国、ソ連邦のモスクワ、レニングラードの主要都市を訪問した。

異国のすべてに目を見張りがらも「若人の連帯」「ユーラシアの友情」「あすの私」という基本テーマのもとに、国境や人種の壁を越え、芸能、スポーツの交流、日本国、秋田を紹介し両国の平和と友情の輪を深めることができた。「鉄のカーテン」にとざされてきたソ連邦も今年は五十周年の輝かしい年、第一歩を踏み入れて以来青年からは以外にも暖かく迎え、想像以上に自由な国という感がした反面、鉄道、橋、飛行機、兵隊等の写真撮影の禁止には固さと不便さをも知った。ただお互に国柄や制度が違つても平和と友情、日ソの友好親善に対する心は変わらないことを確めた。

果しなく広がる大自然の中で一本の木をも大切にする教訓と、ロシア文化を美しく正しく守りつづける尊い国民に深い感銘を得た。青年の訪ソによる両国の親善、友情は永久に消えることがなからう。「ユーラシアの友情」という大きな研修成果の中で、私は人生の一区切り点として、貴重な体験を、今後は郷土秋田の建設のために精一杯に励みたいと思う。

九月定例議会十四日終る

四七・七災害復旧事業中心に

補正額七千二百五拾八万一千円

九月定例町議会は、去る七日から十四日まで八日間おこなわれたが、附議された案件は、議員の報酬の改定にとりもなう条例の一部改正をはじめ、十三件で、補正予算は、去る七月七日から九日における集中豪雨で二億数千円の被害をうけたが、この災害復旧事業費三千八百六十六万七千円を中心に、総額七千二百五十八万一千円の補正額が組まれた。これで予算総額は七億七千三百五拾五万三千円となった。

また人事関係では、注目されていた教育委員には松橋長悦菊地俊之助、小玉嘉一郎の各氏が監査委員には新谷國太郎氏が議会の同意を得た。なお選管委員二名の新人が選ばれた。議決された議案と経過内容は次のとおりである。

加賀谷町長が、開会の冒頭に述べた施政報告の中から主なものをひろってみると次のとおりである

▼四七・七災害報告

●被害総額

二億七千三百五拾二万三千円

▼町関係久保橋永久橋に

町の関係においては、橋梁、道路、河川護岸など十三カ所被害をうけた。緊急査定の対象となつた久保橋が、延長五〇・六m幅員四mの事業費一千八百九十二万一千円の永久橋に、黒土く小倉間通行不能箇所二〇m、事業費百万円が建設省から認定された。残る道路三カ所、護岸八カ所の査定は九月下旬から十月上旬に実施される予定である。

▼県関係緊急査定九カ所に及ぶ

保呂瀬地内の県道の決壊をはじめ、護岸決壊が四十四カ所の被害をうけ、緊急査定の対象となつたのは、国道二五号線の割山地内保呂瀬地内県道、館越、町村、門前各地内の護岸欠壊等九カ所で早期着工の要望をしている。

委員選任の同意を得る 1百3拾9万24円

残る三十五カ所は九月下旬〜十月上旬に査定が行なわれる予定である。

●農業関係

●施設・査定額

三千三百三拾二万一千円

岩見沢水路、一の沢、帝釈寺の農道橋、提台の溜地、寺院、墓内の農道等については、七月二十六日緊急査定が実施された。残る二十四カ所は、八月二十七日査定がおこなわれ、すべて認定になりその査定合計金額が三千三百三十二万一千円となった。

●冠水・収獲皆無六五アール

増水による稲の冠水は三七五haにおよんだが、そのうち収獲皆無となった面積は六五aで、被害者五人に対しては、八月十日、二十万九千四百三十円の災害補償金が支払われている。

●脇乙部署に生活総合センター

これは、農村地帯における食生活の改善や、保育娯楽など生活の基本となる総合性を盛りこんだセンターであるが、かねて県に申請中のところ、このたび脇乙部署に建設することが決定された。建坪は三〇坪で、施設の内容は共同炊事施設、保育施設、娯楽施設等である。

一般質問の中から

質：五高移転の用地確保とその後の経過について町づくりの中で具体策を検討したい。

答：県からは五城目高等学校の現在地を町にあげるから、必要用地を町から提供してほしいと申し込まれてはいるが、現在の土地を拡張するか、他に用地を求めて建設するかは決っていない状態である。長期計画における町づくりの中で、これをふまえて、具体化する方策を検討していきたい。

●運動公園用地に対する再度の反対陳情について

質：駁路に立っている農家の方々、あるいはご迷惑をおかけしているかも知れませんが、私の意図するところは、そのような事態にならないように配慮していくことである。

総論賛成、各論反対という民主主義の路線がありますが、欄を転じて福とする道を見出し、得る能力と意欲が、わが町の民間には必ずあるものと確信しております。

●総論賛成、各論賛成とする共通点を見出すために、決して無理をしないで、いろいろな点を検討し努力していきたい。

質：昭和四十八年度の保育所並びに幼稚園の入所入園児について、来年度から四カ所見充も保育所に入ささせる計画はないか。

答：本町の場合、幼稚園より保育所に対する需要が大きいと受けとめている。

質：秋田周辺広域市町村圏について、

引き上げていくのが本質だと思ふので、そのことをふまえて、五城目保育園は来年度から対象年令を引き下げた場合どの位の人数になって、現在の場所と合うのか等、只今見通しの調査検討の時点で結論は出ておられない。しかし新年度予算編成までには結論を出したい。

質：幼児教育の場が、教委関係と住民関係に分離している弊害があるので、教育体系の確立を急げ、早速着手する。

答：幼児は町の宝ですので、このことについて早急に着手します。

質：秋田周辺広域市町村圏について、

答：広域市町村圏の発足遅延により町に対する交付金・し尿処理場の整備等の見通しは、知事を中心とした協議

答：関係市町村は困っている状態である。過般県知事を中心にいろいろ協議いたしました。計画策定は現状のままです事務処理をし、秋田市議会の議決を得た正式な手続きをとり、年度内に仕上げることになっています。

最悪の事態に直面した場合何らかの点で、国、県から面倒みてもらう。また来年度からの交付税も最悪の場合は、秋田市を除き、その実態を説明して、その分だけ獲得する運動を展開すべく話し合っています。

し尿処理については、広域市町村圏関係の予算も限度があるので、私見ですが、新築都市の公営問題その他も関連させて、流域下水道に関係町村が組合を作つて、これに結びつける計画をもつべきだと思つている。具

体的結論は得ていないが、何れ発足が遅れることによつて、いろいろな事に影響するのはまぬがれない状態である。

質：希望方丘、雀館住宅地域の町道補装の実現について来年度実施。

答：来年度実施の計画になっている。

質：老人福祉施設の設置する考えはないか来年度着手したい。

答：町内の老人の方々とも求められている施設を、来年度は是非着手できるように努力したい。その際は、用地、位置など決まらなかつたあつて老人クラブのみさんからも特段の協力をおねがいしたい。

質：木材くず専用の共同焼却場の建設について要請に答えていただきたい。

答：基本的に自分のは自分で処理するのが建前であるが、これに取り組みできない状態の人々のために援助努力し、要請に応えていきたい。

焼却時に生ずる熱エネルギーの現元利用のアイデアも述べられたが、よく検討していきたい。

質：地元で働ける職場の保証を好転のきざし

答：勤労意欲と職場のアンバランスは仰せのとおりです。

最近どうか中央の工場が地方に目を向けつつあります。既存工場にも町でお手伝いをして充実するための要請に答えていきたい。

教育委員の任命・監査 水道会計46年度純利益

も整備していくことにしている
町道舗装の年次計画を早める
ようにとのご意見ですが、国の
道路予算が町道に重点を置く
ような、税制措置、交付税措置
がなされてきているので、この
ようなことをふまえて、年
次計画の消化に努めたい。

議案第四十四号

五城目町議会議員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例制定について

議案議員の報酬については昭和四十六年三月に現行額に改定したが、その後社会的諸情勢の変化が大きく、議員の仕事の量の対価にふさわしくない状態になっているので、五城目町特別報酬額等審議会の条例の規定に基づき、審議会の意見を求めたのに対し、諮問とおり改定すべきであるという答申があったので、条例を次のとおり改定するための提案したものである。議案長三万七千円 副議長三万七千円 議員三万五千円

議案第四十五号

五城目町職員定数条例の一部を改正する条例制定について

現在の町の職員数は、定数内職員一七〇名、臨時職員等五十五名、総数二二五名である。現在、この人員により平常の行政事務を処理している事実の上に立ち、必要な人員は原則的に定数内に繰り入れるべきであるとの考え方で、職員の身分の安定と適正な人事管理により、行政事務の円滑な運営を図るため、各課室ごと現在職員数を

質：夜場臨時職員の待遇改善について、早い機会に改善する。
答：全員の公平均からいくと、町の臨時職員に対する待遇は上の方になっている。
給食センター等の問題も内々検討しているが、まだ確たる結論が出ておられない状態なので今回は見送らせてもらった。
しかし、実質的な待遇は殆んど役員職員に準じており、共済組合にも加入させている。早い機会にスッキリした形にしたいと思っ。

基準に検討した結果、現在定数一七六名を一四名増やし、一九〇名に改めることが適正であるとして条例を改正するもの。

議案第四十六号

五城目幼稚園保育料徴収条例の一部改正について

国の通達に基づき町立幼稚園の保育料について、幼児に属する世帯の所得の状況に応じて減免する措置を講ずるため、五城目町幼稚園保育料徴収条例の一部を改正するもの。

算定の基準

生活保護世帯及び町民税所得割均等割のみの世帯の保護者については、一〇、〇〇〇円

町民税所得割額一〇、〇〇〇円以下の保護者については、年額 五、〇〇〇円を、月額にして現在の保育料月額一、五〇〇円から減免するもの。

対象者は、現在園児一五七名中八七％の一三八名の保護者で、このために要する費用百拾二万五千円、国庫補助金 三拾七万五千円、地方交付税、七拾五万円であらうものである。

議案第四十七号

秋田県市町村職員恩給組合資産管理組合規約の一部変更について

議案第四十八号
町道の路線認定について

議案第四十九号
昭和四十六年度五城目町水道事業会計決算認定

収入総額 二千四百二十六万九千三百九十七円七角

支出総額 二千二百九拾万一千四百拾一元
当期純利益は 百三拾九万二千九百三拾六円

議案第五十号

昭和四十七年度五城目町一般会計補正予算(第二号)

議案第五十一号
昭和四十七年度五城目町有林野特別会計補正予算(第一号)

議案第五十二号
昭和四十七年度五城目町国民健康保険特別会計補正予算(第一号)

議案第五十三号
昭和四十七年度五城目町簡易水道事業特別会計補正予算(第一号)

議案第五十四号
昭和四十七年度五城目町水道事業会計補正予算(第一号)

議会の同意を得た教育委員
松橋 長悦(内川)
菊地豊之助(五城目)
小玉嘉一郎(面瀨)

選任された監査委員及び選挙管理委員会
監査委員
新谷國太郎(五城目)

選挙管理委員
小熊 久孝(大川)
石井 勇(馬場内)
伊藤真一郎(富津内)
今村 方介(五城目)

同補充員
山田 国三(五城目)
猿田 俊雄(馬川)
松橋徳之助(内川)
一ノ関竜雄(面瀨)

補正予算の財源は

九月補正予算の裏付けとなった歳入財源は、次のとおりである。

町税

町民税 二百八万二千円
固定資産税三百二十九万一千円
都市計画税 二拾五万四千円

地方交付税

普通交付税 八拾二万二千円
交通安全対策特別交付金 二拾六万二千円

分担金及び負担金

農業災害復旧事業分担金 九拾三万七千円
国庫支出金 二千六百八拾一万七千円

国庫支出金

負担金二千四百八拾二万六千円
補助金 百七拾七万九千円

町債

集落移転 四百万円
農業災害 二百四十万円
土木災害 八百四十万円
存置減 一千万円

預金利息

雑入 五万五千円
諸収入 二百万円
前年度繰越金一千五百三拾万円

繰越金

一般寄附金 拾万円
寄附金 拾万円
補助金 七百三拾二万七千円
委託金 八万一千円

委託金

県補助金 二拾一万二千円
委託金 二拾一万二千円



こどもと老人をみんなで
交通事故から守ろう。

秋の交通安全運動 9月22日～10月1日
運動の重点
①子どもと老人に対する交通安全指導の強化
重点実施事項
この運動は、歩行者中とくに事故率の高いこどもと老人の交通安全活動を強化することを中心として、地域ぐるみで行われる。

みどりの大敵

アメリカシロヒトリを

退治しましょう

クワ、ヤナギ、タモ、キリ等のほか農作物までも食い荒らすアメリカシロヒトリが八月末頃からついに本町にも発生しました。

今のところ、大川、面潟、馬川地区だけのようですが、発生したのを知らずにいると数日で大木も丸坊主にされますので、樹木を常に観察するようにしてください。

谷地中では、二十年以上の大きな木が一葉も残さず食いつくされたものもあります。

発生直後は集団性があり、糸を吐いて巣をつくりその中にまどをつております。最初のころは葉の表皮を残して食べるので葉がすく

てみえ、成長すると葉の筋だけを残すので葉が網の目のようになり直接虫が見えなくなるとすくわかりません。

役場では蔓延を防ぐため、九月六、七、十一日の三回にわたって薬剤散布に回りましたが、役場だけではとても手が回りかねますので町民ごぞつて防除につとめるようお願いいたします。

防除方法は、発生直後でまだ巢の中にいる場合は枝を切り取って枝ごと焼いてしまいうのが一番確実ですが、巣から出てしまったものについては、「デイブテックス」を散布します。



保育園児の楽しい遠足

9月1日は、五城目保育園児たちの楽しい遠足であった。心配された空も前日とはうってかわり、カラッと晴れあがった。

バス五台に分乗した園児たちの喜々とした顔、顔、顔見ているにははえましくなる。嬉しいはずです。お母さんも一緒なのだから。

秋田市で動物園をみてははしやぎ、八橋公園でお昼をとってははしやいで、午後3時頃無事町へ到着。

動力散粉機があれば簡単にできず、高い木には梢まで届かない場合もあること、粉剤では家のない家もあることなどから、部落等が共同で大聖防除機を利用して乳剤(一〇〇倍液)を散布する乳剤が最も効果的です。

九月下旬に入りますと蛹になつてしまふ防除ができなくなり、来年度また大発生することになりますので、徹底した防除をお願いします。

す。なお、お盆過ぎから「モンクロナヤチホク」による核の被害が、あちこちに見受けられますが、これは葉をすくつき食つてくし、葉柄だけにします。「アメシロ」とは別別です。

この害虫は、もうほとんどいなくなつておりますが、まだいるようでしたら、「アメシロ」と同じ方法で防除してください。

カチューシャの国を訪ねて

大川 伊藤 正 春



立県百年を記念して県が始められた。カチューシャの国を訪ねて。大川 伊藤 正 春

た青年海外研修に参加し、県内青年年百五十名の団員として青年の船で訪ソした。「若人の連帯」「ユライアンの友情」「あすの私」というテーマをかけたソ連各地をおよそ二週間にわたって研修した。

ソ連青年との交流はいろいろの形で進められたけれど、この青年交流も私達が予想した以上の歓迎ぶりだった。

交歓会場では、ようこそ日本の青年」の横断幕と日ノ丸で歓迎され、芸能交流はロシア民謡「カチューシャ」の大合唱のあとには日本の歌、「荒城の月」「さくらさくら」を歌い日本から準備して行った、ゆかたやはんてん染になり「ドンバン節」や「炭坑節」の手踊りを披露し手を取りながらダンスを踊った。満足こそはは通じなくて、心と心が触れあつたソ連青年との友情は、未長く消えさることはないと思う。かつては鉄のカーテンで、だされたいソ連というところで、いろいろ制限がかましているが、行つて見るとそれ程でもなかった。しかし飛行機、汽車からの写真撮影、飛行場、橋、港、軍人等の写真撮影は厳しく止められた。

汽車には車両ごとに車掌兼監視

の人が乗っており飛行機も同じである。撮影禁止のところにカメラを向けるとカメラは取り上げられる、場合によってはパスポートまで没収される位きびしい規制である。

町の印象は緑が豊富で、公園と町の中がきれいなには感心しました。町の中を歩いていてもゴミが一つも落ちておき、あんなにきれいだとばかりの吸いながら捨てようとしてもつい思いとどまる。街路の清掃もあちこちで見られ、聞いてみると自発的な奉仕という事でした。公共の建物を大切にすることという気が強く、日本ではまねのできないことがたくさんあつた。

ハバロフスク市内では食料品店はどこにでもあつたが、衣料品店は余りなくスカーフ、ハンカチ等のプレゼントに対し大げさな喜びを示したことにあらみても衣料品の不足は明らかで、しかも日本の三倍位の値段である。ストッキングをはいた女性はめつたに見かけず、その殆んどは素足のまま靴をはいていた。

一般家庭のカラーテレビ普及もゼロに等しかったし、町を走るパの自動車も少なかった。カッコいいは見当たらない。ぜいたく品は不必要というのソ連の徹底した考え方と思う。

ソ連の女性はよく働らく、医療関係の職場では八割位女性だし、学校の先生など教育関係の仕事でも七割は女性である。結婚して子供が出来てもほとんど夫婦は共働きである。保育所や幼稚園がどんなに広い所でも完備しているし学校に入るように完備してオネール(共産主義少年団)に入り、親が仕事から帰ってくるまでそこで学んだり遊んだりする。こうしたシステムが共働きを可能にしていると思う。

日本とソ連とは国柄や制度が違うのはもちろんだが、二週間の研修で広大なソ連のすべてを知るのには無理だったが、単にことが通じないというのを返かしてもそれ以上の不便さを見たし、感じたり考えてきた。ただお互いに立場は違つていても平和を求める気持や友情、日ソ親善を目ざしている考え方は、私達もソ連の青年も愛われないことをこの目で確めてきた。ともかく始めて見るソ連で得た数々の体験は、何ものにもかえがたい貴重な宝となるものと思つている。

農業委員武田新市氏

農業委員会 武田新市氏
農業委員会 議事録 政務委員会
選任される

五城目町農業委員会の武田新市委員は、さきに秋田県農業会議員として選任されたが、過般おこなわれた、県農業会議員総会において、各町村選出の要員五十八名のなかから十五名選出の農政部員に互選された。

武田委員は、多年にわたる豊富な経験をいかす絶好のチャンスでもあり、今後の活躍が期待されている。

